

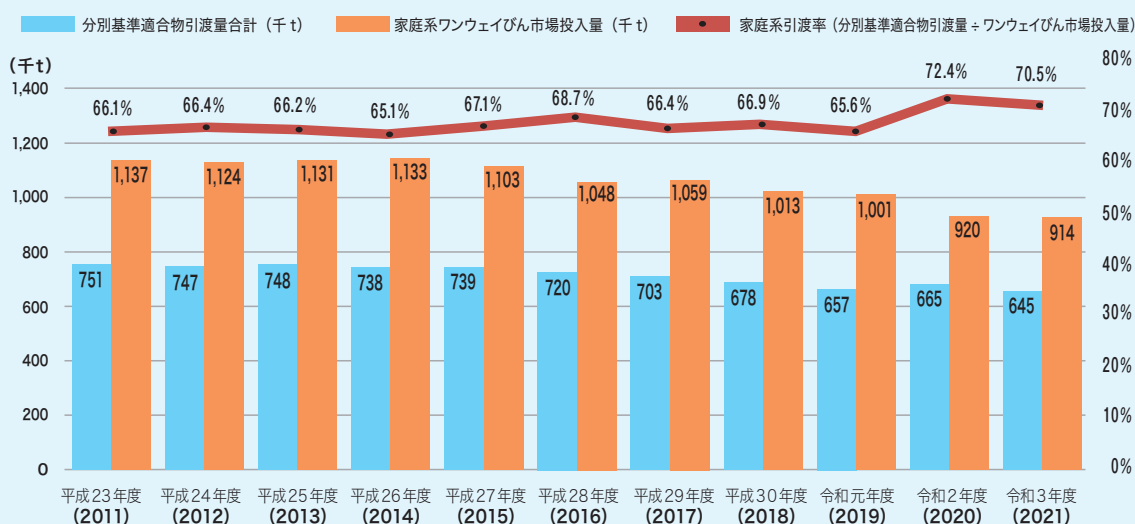
引渡量は若干減少も高い引渡率を維持

令和3年度 ガラスびん分別基準適合物引渡数量

環境省が公表した「令和3年度 容器包装リサイクル法に基づく市町村の分別収集等の実績」を、市区町村の住民1人当たりガラスびんの分別基準適合物引渡数量実績に加工・分析するとともに、当協議会が2021(令和3)年度に実施したガラスびんの収集・運搬方法等の全国自治体アンケート集計結果とのクロス分析を行いました。

分析から見えるガラスびんリサイクルの現状と課題を解説します。

【図1】家庭系ワンウェイびん市場投入量と分別基準適合物引渡数量、引渡率の推移



令和2年度に大きく伸びた引渡率は、令和3年度も高水準をキープ

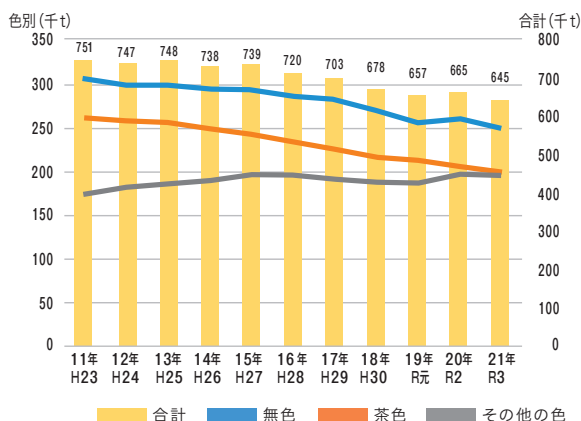
本年3月に環境省が公表した、令和3年度のガラスびんの分別基準適合物引渡数量（以下、引渡数量）は全国計で645千トンであり、これを住民基本台帳の人口で除した1人当たりの引渡数量は5.12kg/人となり、令和2年度よりも0.13kg/人減少しました。

家庭系ワンウェイびん市場投入量（以下、市場投入量）も引渡数量も平成24年から令和元年度までは概ね減少傾向にありましたが、引渡数量は令和2年度に増加に転じたものの、令和3年度は再び減少し、914千トンとなりました。ただし、昨年度に大きく上昇して初めて7割台となった、引渡数量を市場投入量で除した値である家庭系引渡率は令和3年度も7割台を維持しました(図1)。

「その他の色」の構成比は10年連続で増加し、初めて3割を超え「茶色」に肉薄

色別引渡数量でも、「無色」、「茶色」、「その他の色」全ての色で前年度よりも微減でした(図2)。

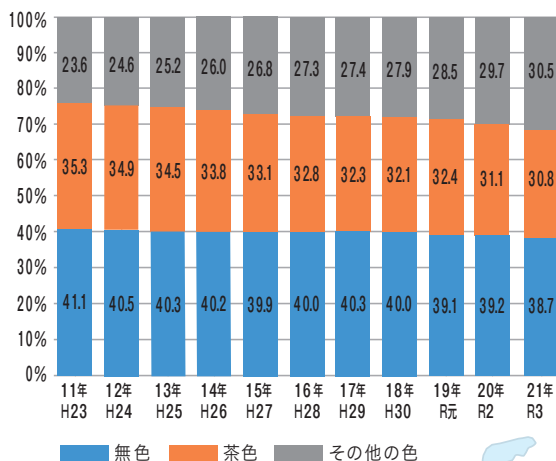
【図2】ガラスびんの引渡数量の推移



クロス分析で読み解く、ガラスびんリサイクルの現状と課題

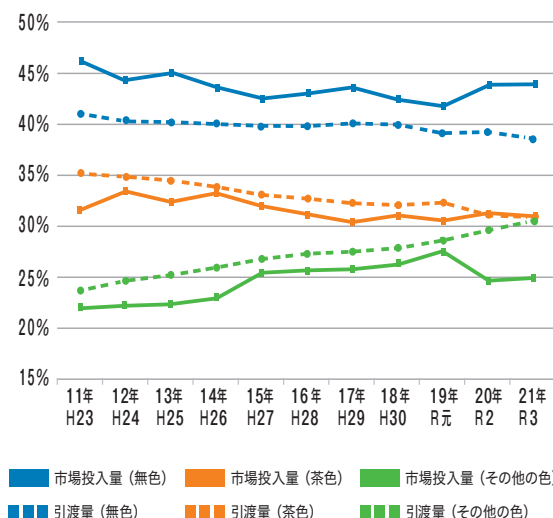
引渡量の色別構成比は、平成23年度は「無色」が41.1%、「茶色」が35.3%、「その他の色」が23.6%でしたが、「無色」と「茶色」が減少する中で「その他の色」が10年連続で増加し、令和3年度では、「無色」38.7%、「茶色」30.8%、「その他の色」30.5%と、「その他の色」は初めて30%を超え、「茶色」に肉薄しています(図3)。

【図3】 ガラスびん引渡量の色別構成比の推移



また、いずれの年度も引渡量の「その他の色」の構成比が市場投入量の「その他の色」の構成比を上回っており(図4)、色選別の過程で「無色」や「茶色」が「その他の色」として処理されている可能性は否定できないと推察されます。

【図4】 市場投入量と引渡量の色別構成比の推移



運搬方法によって1人当たり引渡量大きな差ができる

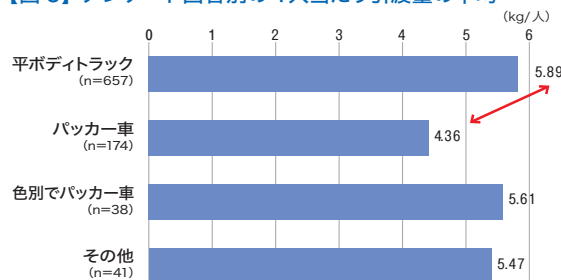
当協議会が2022年3月に実施した2021年度自治体アンケート結果を用いて、自治体別の1人当たりの引渡量とのクロス分析を行いました。アンケートは全国1,741自治体に送付し、回答自治体は1,179で回答率は67.7%、人口ベースでは82.4%でした。

※全体の回答は1,179自治体だが、質問によっては無回答や複数の選択肢を回答している自治体もあるため、1人当たりの引渡量との関係を見る際には、各質問において一つの選択肢のみに回答をしている自治体のみを取り上げて集計・分析を行った。

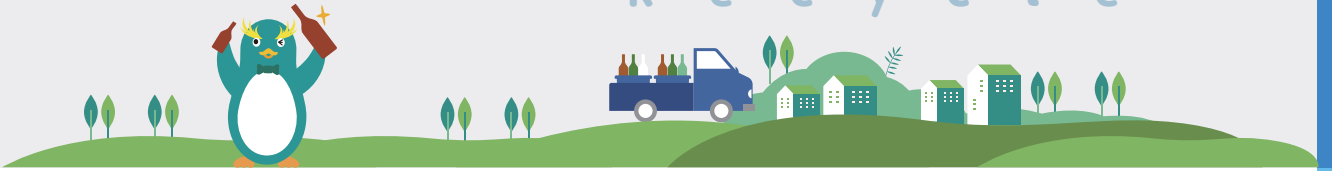
- ① 空きびんの収集頻度
- ② 空きびんの収集方法
- ③ 収集時の道具、容器
- ④ 収集形態
- ⑤ 収集時の運搬方法
- ⑥ 化粧品びんの収集状況
- ⑦ 生きびんの収集状況

アンケートの各質問の各選択肢を選択した自治体の1人当たりの引渡量の平均値をみた結果、収集時の運搬方法により大きな差が生じることがわかりました。1人当たりの引渡量の平均値をみると、「平ボデイトラック」での運搬が5.89kgと多いのに対し、「パッカー車」では4.36kgになっており、1.5kg以上の差がありました(図5)。また、「パッカー車」は「その他の色」比率も高くなる傾向がみられ、収集時の圧縮でびんが破碎され、色選別時の精度が低下することで「その他の色」に「無色」「茶色」が混入し、「その他の色」の割合が高まっていると推察されます。

【図5】 アンケート回答別の1人当たり引渡量の平均



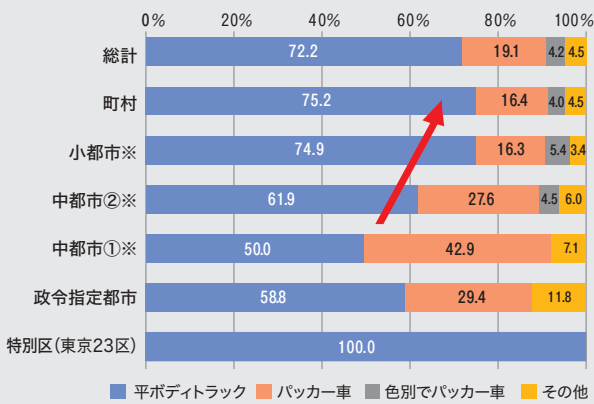
都市規模別※に収集時の運搬方法をみると、特別区、政令指定都市を除き、自治体規模が小さいほど「平ボデイトラック」の比率が高く、逆に規模が大きい



ほど「パッカー車」が高い傾向があります(図6)。

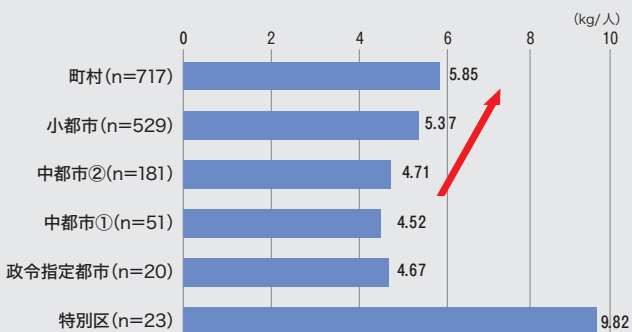
※人口規模により、**特別区**(東京23区)、**政令指定都市**(札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、川崎市、横浜市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市の20都市)、**中都市①**:人口30万人以上の市、**中都市②**:人口10万人以上30万人未満の市、**小都市**:人口10万人未満の市、町村に6区分した。

【図6】自治体規模別収集時の運搬方法



都市規模別にそれぞれの1人当たり引渡量の平均をみると(図7)、特別区で9.82kgと最も多くなっています。特別区、政令指定都市を除くと団体規模が小さいほど1人当たりの引渡 lượngが多い傾向があり、図5、図6でみたように、運搬方法により、引渡 lượngが影響を受けている可能性があります。

【図7】自治体規模別1人当たり引渡量の平均

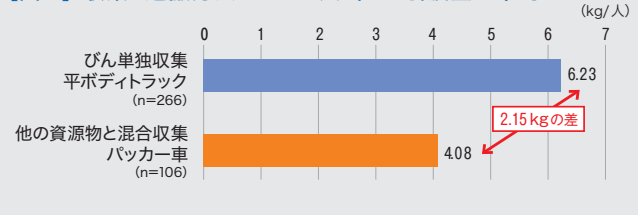


ガラスびんリサイクルの効率・効果向上に向けて

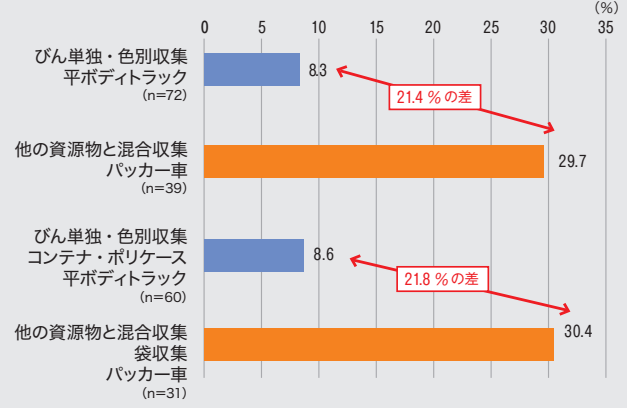
1人当たり引渡 lượng、差異率※、「無色」・「茶色」から「その他の色」への混入、いずれにおいても収集・

運搬方法で「他の資源物と混合収集」、「パッカー車」など収集・運搬時に「混ざる」「びんを破碎する」方法は悪影響を与える可能性が高くなっています(図8、図9、図10)。

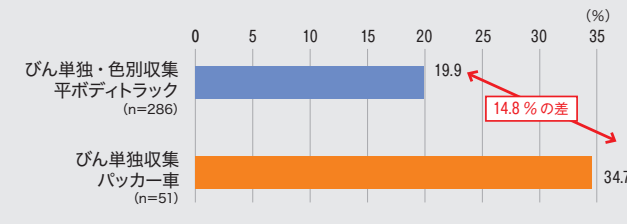
【図8】収集・運搬方法による1人当たり引渡量の平均



【図9】収集・運搬方法による差異率平均



【図10】収集・運搬方法による「その他の色」構成比平均



※分別収集量から引渡 lượngを引き分別収集量で除し100倍した値
[差異率 = (分別収集量 - 引渡 lượng) ÷ 分別収集量 × 100] で、分別収集量のうち分別基準適合物として引き渡せなかった割合を表したもの

逆に、「びん単独・色別収集」「平ボデイトラック」は色別に収集したものを混ぜず、破碎せずに運搬することで差異率の向上、「その他の色」への混入を防ぐと考えられます。

一方で、色別に収集するには、生活者の方のご協力が不可欠であり、空きびんを資源として活用するために色別に排出することの重要性を理解していただくことが重要です。

ガラスびん3R促進協議会 会長就任のご挨拶

「第4次自主行動計画」推進および
「2023年度事業計画」に則り
ガラスびんの3Rを推進

ガラスびん3R促進協議会
会長 野口 信吾



第27回通常総会におきまして、会長に就任いたしました野口でございます。就任にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。
「ガラスびんは、利便性や効率化などを優先する社会状況下で、他素材容器への移行など相まって厳しい状況に置かれています。また、コロナ禍の3年間でも大きな影響を受けまし

たが、外食産業などの経済活動再開に伴って緩やかに回復基調にあります。第4次自主行動計画も3年目となりますが、資源循環型社会促進に向けて容器としての優れた特性や優位性を発信をします。3Rのすべてに対応でき、何度でも水平リサイクルが可能であり、国内でリサイクルが完結しているガラスびんは、環境を取り巻く社会問題の解決に資することができるかと確信しています。

引き続き「第4次自主行動計画」と「2023年度事業計画」に則り、ステークホルダーと連携してガラスびんの3Rを進めてまいります。

今後も、会員各社・各団体の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、各課題に精力的に取り組んでいく所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

INFORMATION

2023年6月15日

第27回通常総会を開催。新役員の選出と全議案が承認されました

2023年6月15日、日本ガラス工業センター会議室において、第27回通常総会が実地とオンラインのハイブリッドで開催され、2022年度事業報告書(案)・収支報告書(案)、役員選任・変更、2023年度事業計画書(案)・収支予算書(案)の議案が審議され、全議案とも可決、承認されました。

2023年7月7日

事業計画記者説明会を開催

「2023年度事業計画記者説明会」を日本ガラスびん協会との共催で2023年7月7日に開催しました。当日は12社、14名の記者にお集まりいただき、当協議会からは2023年度事業計画、2022年ガラスびん軽量化実績、令和3年度市町村別分別基準適合物引渡量の分析結果などを説明しました。

2023年7月13日

「容器包装交流セミナー」を開催

2023年7月13日(木) in 札幌

当協議会が加盟する3R推進団体連絡会と3R活動推進フォーラムの共催による「容器包装交流セミナー」が札幌市で開催されました。同セミナーは各主体との相互理解と連携を深めてゆくために、市民、自治体の方々との双方向の意見交換の場として今回で25回を数えます。

当日は環境省、北海道からの挨拶の後、開催地の札幌市とNPOの事例紹介、同連絡会の取り組み実績報告と続き、参加者によるグループディスカッションが行われました。

びんリユース関連のお知らせ

びんリユースの事例紹介「東京システム21」をリターナブルびんナビに掲載

東京23区では、東京壺容器協同組合(以下、東壺)が掲げた「東京システム21」が導入され、各区の東壺会員のびん商が参画して酒販店回収・自治体収集の両輪でリターナブルびん回収が行われています。当協議会の会員でもある、東壺会員の(株)京福商店笠井代表取締役は「東京システム21」についてお話を伺い、「首都から発信するびんリユースの輪「東京システム21」で推進するリターナブルびん」と題し、リターナブルびんナビに掲載しました。



詳しくはこちらから



1.8L壺利用及び回収に関する調査(2022年度実績)集計結果概要を公表

1.8L壺再利用事業者協議会は容器包装リサイクル法第18条に基づく自主回収認定容器である1.8L壺について、自主回収の状況(利用量ならびに回収量)の調査集計結果を基に自主回収状況報告書を作成し、6月30日に提出し、収受されました。2022(令和4)年度の1.8L壺利用量は82,560千本(78,432トン)、回収量は58,221千本(55,310トン)、回収率は70.5%でした。調査集計結果概要はリターナブルびんナビで公表しています。

詳しくはリターナブルびんポータルサイトをご覧ください

